

日本あちこち河川遡行記（第258回）

奈良1-2. 富雄川（その3）平成31年4月18日（木）快晴



01.今回調査区間位置図

朝10時27分近鉄奈良線「富雄駅」に降り立ち、県道に面した西口から坂を東に向かいバス乗り場に向かう。前回使ったバスの終点は1系統だけのバス折り返し点でバス停名は「富雄」。これから向かう駅のすぐ南のバス停は「富雄駅」。よそ者には分からへんやんかー。先日の打ち切り点の「三碓」バス停まで奈良交通に乗り、そこから遡行を開始する。今日は昼の最高気温が20数度になりそうなので暑さ対策も必要な気候である。

川の西側の車の少ない道を上流に向かう。この川の周囲には多くの人口があるので橋の間隔が狭く、100mも歩けば次の橋が現れる。「富雄中学校」の前に来ると右岸側（西側）から川と県道を一跨ぎに越える横断歩道橋が架かっている。



02.富雄中学校前の横断歩道橋は川と県道を一跨ぎ

近鉄奈良線の橋の下を潜り進むと先ほどと瓜二つの横断歩道橋が川と県道を跨いでいる。今度は「富雄北小学校」だ。高所恐怖症の人には怖い高さの川を

横断する OV だ。こちらの方が塗装の劣化は進んでいない。



03.富雄北小学校前の歩道橋は瓜二つだ

一旦左岸側に集約されていた県道 7 号が再び川を挟んでそれぞれ 2 車線の一方通行になる。川幅はずーっと変わらず単径間の PC 橋が連続する。共通設計を適用するのにモッテコイの川である。桜並木が現れるが既に花卉は無くなり葉も出ず、中途半端な姿だ。



04.花の散った桜は味気ない姿



05.県道 7 号は再び川を挟んで一方通行に

東側から低い丘が川にせり出してくる。丘とその奥には多くの神社仏閣が有るようだ。「杵築橋」に来ると橋の向こうに同名の神社の石柱と鳥居が有る。背の低い松並木の参道が伸びている。「杵築」とは大分県の杵築と同じ名前だが関係が有るのかな？橋は下流側から幅 1m ほどの歩道、小型車同士ならすれ違える 1.5 車線の車道の PC 橋で、ここまでとこれから先もこの構成の橋が続く。両側が一方交通の道路を繋ぐ橋として合理的な橋である。

道路沿いの桜の一部に牡丹桜が植えられ、こちらは今が盛りと満開の大きな花を見せてくれる。造幣局の通り抜けも始まっていることだろう。



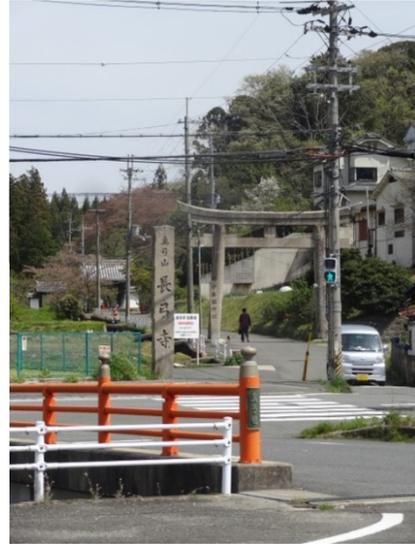
06.神社と橋は同じ名前の「杵築」だ 07.今度は私の出番よ、と牡丹さん

道の西側に大規模商業施設が現れ、奥には回転寿司屋が有る。丁度昼時なので逆行には珍しい回転寿司屋に入る。30分の休憩後再開する。奈良市から生駒市に入るがそれらしき地形的な違いは何も無い。丘の住宅が途切れ鬱蒼とした森が丘を覆っている。地形図で見るとその奥に「円證寺」の寺マークが描かれている。



08.鬱蒼とした森の向こうは「円證寺」かな

続いて「安養寺橋」とその安養寺の入り口が現れる。全ての寺の入り口になる橋の名前は寺名と同じだ。続いて「真弓橋」が現れるが寺の名前は「長弓寺」と例外が現れる。「例外の無い橋（寺）は無い!」。地名は生駒市真弓となっている。ここにも寺の参道入り口に鳥居が立っているぞ。



09.「安養寺」の入り口はベリーグッドだ 10.寺名の石柱の横にはなぜか鳥居が

気温はどんどん上がり寝不足の体にこたえる。近鉄けいはんな線の高い橋桁の下を潜るとあな珍しや！スタバが有るぞ。鳥取駅近くのスタバ以来の店の中に入ると満員で席が無い。近くのバス停の時刻を調べてあったので丁度バスが来る頃なので最後の「上村大橋」を見て富雄駅行きバスに乗る。バス停前に有ったマンホールの絵柄はわけの分からない物である。自然と歴史溢れる生駒なのに未来都市を夢想している。



11.遡行二度目に出会ったスタバは満員 12.この絵は何時の時点の姿なのだろう

富雄駅からの電車の先頭のかぶりつきの所から急勾配の上下を体感する。大阪と奈良の間を最短で計画し、山も丘も何するものぞと急勾配と長大トンネルと電化で克服した鉄路である。狭軌で蒸気機関車を走らせていた鉄道院（省）では出来ない芸当である。



13.上り 35‰の坂道



14.今度は 33.3‰の下り坂

本日の歩行距離：5.5km。調査した橋の数：35。

総歩行距離：10,388.2km。総調査橋数：13,098。

使用した 1/25,000 地形図：「生駒山」（京都及大阪 8 号-2）